

補助教材の選定に関する調査結果（令和２年度）

ガイドラインの遵守について、実際の状況を確認するため 22 小中学校を訪問し現地調査を実施した。

（１）ガイドラインに則った取組状況の調査結果

新型コロナウイルスの影響により保護者に対する説明ができなかった学校が 2 校あったものの、全校が補助教材ガイドラインで規定する手続きに沿って補助教材を選定していた。

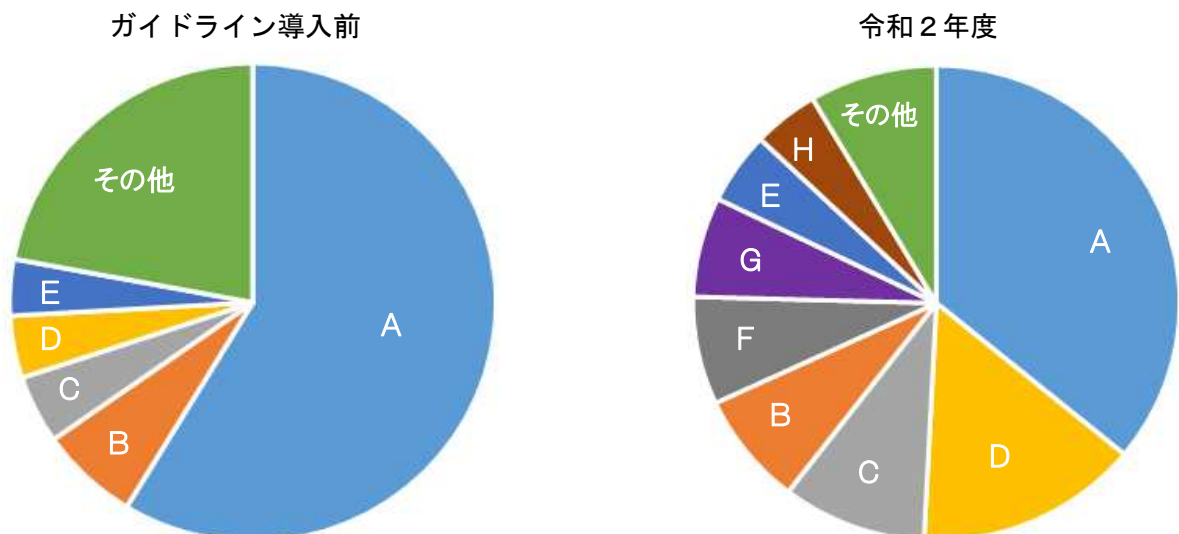
調査項目	
1	職員会議で補助教材の取扱い等について共通理解する場を設けた
2	前年度使用した補助教材の効果を検証した
3	複数の教材見本を収集した
4	補助教材の作成に関与した教員が選定に関与していない
5	複数の教材見本を比較・検討して選択した
6	複数の教職員の目で選択作業をした
7	選択基準を設けて、それに基づいて選択した
8	教材を使用する年度の校長が最終決定をした
9	市町教育委員会に補助教材の使用届等を提出した
10	保護者会や通知等で説明した、あるいは意見を聞く場を設定した

（２）確認できた選定状況

これまで継続してガイドライン遵守の徹底を図ってきたことから、上記の結果のとおり、各学校にガイドラインに沿って選定を行う意識が浸透している。

（３）補助教材作成会社のシェア推移

現地調査の結果、教材作成への教員の関与が指摘されている事業者 A 社のシェアについては次のとおりであった。



※訪問した小中学校で選定された補助教材における、シェアが 3%以上である事業者を表示